



いつもより楽しい！
また来たいな

もっとつながる楽しみを！

こども食堂 × 交流型の アート ススナ

いつもは話さない子と、
はじめて喋ったよ！

地域のなかで、子どもやおとなたちの大切な居場所である「こども食堂」が全国に増えています。もっともっと、来てくれた人同士や、スタッフとの交流が生まれるといいなと思いませんか？「交流型アート」を取り入れてみると、垣根を越えたコミュニケーションが生まれます。





こども食堂スタッフ

Q 交流型アートってどんな活動なの？

A 一緒にアートを楽しみながら交流することを目的とした活動です！

子どももおとなも



コーディネーター

こんな活動が全国で始まっています！



2

Q クラシック音楽のコンサートを子どもたちに聞かせたいけど...そういうのとは違うの？

A 「共にその場で」創り上げるから、「どんなものが生まれるか」のワクワク感が共有でき、たくさんのコミュニケーションが生まれるんです。

ジャンルはさまざま





Q 交流型アートをすると、いいことあるの？



A つながりのなかで可能性がひらきます

「どうやればいいかな？」「すごい！」アートに取り組む中で、他の参加者やスタッフと話すきっかけが生まれます。



3

ふだんとは違う表現活動や交流のなかで、自分でも気づかなかった「できた」「やりたい」に出会えます。

交流型アートの実例を見ていきましょう！



例 合作俳句

30分～

小スペース

3人～

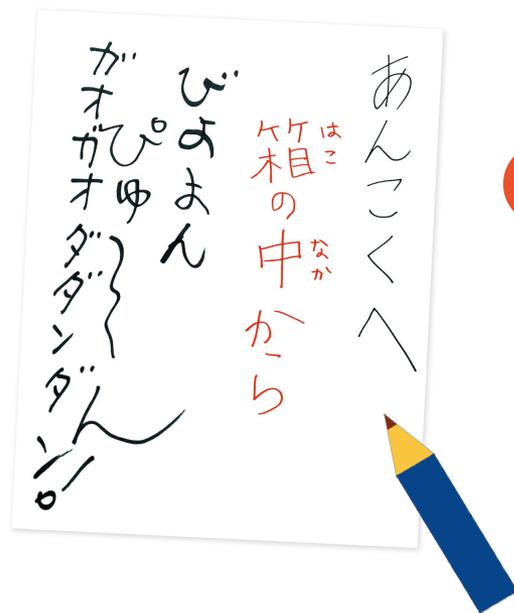
ごはんを食べる前でも楽しめる！みんなで一緒にわいわい俳句を作ろう

[考案者] 上田假奈代 (詩人)

●用意するもの 紙とペン

おもしろいと思ったところを
見つけてみよう！

1. テーマを決めます (例「おにぎり」「春」など)
2. 一巡目。はじめの「上五 (俳句の最初の5音)」を書いたら紙を回収してシャッフル。参加者に配り直します。きっちり5音じゃなくてもおもしろいからOKです。
3. 二巡目。まわってきた紙に書いてある上五に、「中七 (俳句の真ん中の7音)」を足します。このとき、最初の5音からできるだけ遠く離れた言葉を書きます。これもまた、きっちり7音じゃなくてもおもしろいからOKです。書けたら同じように回収してシャッフルします。
4. 三巡目。最後の「下五 (俳句の最後の5音)」を書いて俳句を完成させます。もちろんこれも、きっちり5音じゃなくてもおもしろいからOKです。このとき、最後の5音を上五として反対から読ませることもできます。
5. できあがった俳句を読み聞かせあいます。いいところを見つけて、みんなで褒めあいます。



4



子どももおとなも、どんな人でも参加できて、一人では絶対に生まれない不思議でおもしろい俳句が誕生します！

例 ダイヤモンドダンス

15～20分

小スペース

4～5人

真似をすれば、だんだん楽しくなってくる！からだを一緒に動かすだけでなかよくなれそう

[考案者] 不詳

ダンスが苦手でも、なんだか楽しい！

●用意するもの なし

1. 4～5人でグループになり、リーダーを一人決めます。
2. リーダー以外のフォロワーはリーダーの動きを真似しながら、グループでダンスを作ります。
3. グループで空間を動き回りながら、その時先頭にいる人がリーダーとなる形で、リーダーとフォロワーが次々に交替します。



音楽を入れるともっと楽しいよ！



リーダー役を好きなタイミングで交替しあえるので、自分のできる範囲で参加するだけで達成感を共有できます。

例 アンバランスタワー

40分程度

小～大スペース

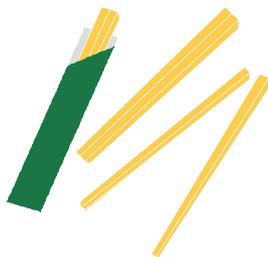
2人～

子どももおとなも熱中！高くするにはどうしたらいいかアイデアを出しあおう

[考案者] 矢津吉隆（美術家）

●用意するもの 割り箸、マスキングテープ

1. チームに分かれます。
2. マスキングテープを貼り合わせた割りばしだけでタワーを作り、高さを競いあいます。



どうすればもっと高くなるかな？



こんな高さまでつくれるんだ！



自分たちの身長以上の高さになると、ヒートアップ。
自然と、創意工夫や協力が生まれます！
机の上、床など、空間にあわせてチャレンジしてみてください。



参加者同士が話すきっかけが
多く生まれました！

みんなで絵を描くのが楽しかった！

たくさんの方が交流型アートに
関わることでさまざまな変化が
生まれます

とても熱中していて、子どもの
知らない一面を発見しました

これからもどんな関わりが
できるのか考えたいです

大切にしたいこと

交流型アートが大切にしているのは「一緒に」「その場で」「参加感」。アーティストにうながされ、集まる人それぞれが関わるなかで、表現をつくりだします。でも、無理やり参加してもらわなくても大丈夫。その場で見ているだけでも、感じるものがあるはず。撮影係などをお願いするのもよいですね。

アーティストは先生じゃない？

アーティストは、先生として、子どもたちに教えに来る...わけではありません！それぞれの表現を使いながら、そこに集う人々の可能性を引き出し、交流を生み出します。芸術のジャンルはさまざま。音楽や演劇、ダンスや体操、工作、詩や俳句、ラップ...普段、こども食堂に集まる人たちは、何に興味がありそうでしょうか？

交流型アートを実際にやるまでのプロセスは？

交流型アートは、実施するプロセスも「共に創る」のが特徴。コーディネーター、こども食堂、アーティストが集まって、目標設定や企画の具体化、振り返りを行います。

起こしたい変化を言葉にします。
例：「違いを楽しむ」「できるを重ねる」

コンセプトづくり

アーティストを含め、企画
を具体化していきます。

打ち合わせ

打ち合わせ

アーティストを検討

準備・実施・振り返り

普段感じていることや子どもたちの様子などを話し、起こしたい変化について検討します。

どんなアーティストに来てもらうか検討します。

振り返りでは、関わった人たちとどんな変化が生まれたかを話します。

一緒にやってみましょう



本資料の目的・使い方

この資料は、こども食堂での交流型アートを普及する目的で作られました。こども食堂などの地域の居場所の実践者や支援者などのみなさんが、交流型アートを提案・検討する際にお使いください。

発行日 2025年3月

作成者 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目27-5 リンクスクエア新宿16F
TEL：03-6778-8230

編 クリエイティブ・リンクワーカー推進協議会
NPO法人エイブル・アート・ジャパン 柴崎由美子
(公財) 可児市文化芸術振興財団 松浦正和・半田将仁・澤村潤
NPO法人子ども文化地域コーディネーター協会 大澤寅雄
(公財) 堺市文化振興財団 常盤成紀
NPO法人ドネルモ 山内泰・宮田智史・櫻井香那・渡邊めぐみ
認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 湯浅誠・保坂孝信・端野真佐子・竹内ひとみ

執筆 常盤成紀・山内泰・渡邊めぐみ

編集 NPO法人ドネルモ

事例・写真提供 (公財) 可児市文化芸術振興財団
(公財) 堺市文化振興財団

デザイン 長末香織

内閣府 令和6年度孤独・孤立対策推進交付金（孤独・孤立対策担い手育成支援事業）
孤独・孤立対策に有効なアートWSを地域で自走できるツールの開発・実証・普及に関する事業
※本資料は、出典を明記する事を条件に利用（転載、共有等）を許可します